

テーマ：修了生と院生でオンライン ver.べんきょう会をやってみよう！

修了生と現役の院生が自主的に交流し合う今回のべんきょう会は非常に実りのある会となりました。現場に出て見えてきた視点、院生として学びを深めている中で気づく視点、それぞれの視点からの交流は、これまでのべんきょう会よりも一層深い学びとなったように思います。1時間以内に終わることを予定していましたが、1時間半以上かかってしまったので、もう少し時間内に終わらせることを次回の改善点としていきたいですが、自然と話したいことが増えていくことはすごくいいことだと思いました。まさに対話が自然と広がったり、深まったりする様子でした。

今回の対話検の大きなテーマは「生徒がやりたい！学びたい！と思える授業導入とは？」であり、土居さんが実際に授業をした内容を実施してもらいました。

土居さんによる授業：導入編

- ・美術「立体を描く、影：デッサン」

第1回参加者


- ・巻川（小学校）
- ・土居（中学校：美術）
- ・毛利（小学校）
- ・山下（高校：社会）
- ・阪下（小学校）
- ・ユジン（韓国・小学校）
- ・山口（院生：特別支援）
- ・廣瀬（院生：数学）
- ・中野（院生：美術）

教科書 P10~15、P60.61 参考に

「スケッチ」 人物や風景などを大まかに描写すること

「デッサン」 主に人物や動物など動きのあるものを素早く簡潔に線のみで描写すること

「クロッキー」 主に人物や動物など動きのあるものを素早く簡潔に線のみで描写すること



導入部分のパワポを見せながら、説明していただきました。

Jamboard を使って検討会を行いました。

土居さんによる授業：検討会編



黄色の付箋が学習者、黄緑が授業者です。まずは、対話検ですので、自分が感じたこと、思ったことをどんどん発散させていきました。その中で、時折それぞれがしたかったこと、それぞれの思いや願いが見えてきます。すると、対話がだんだん深まり、授業者と学習者のズレが見えてきます。今回は、そこからさらに授業を発展させていくために、どのような可能性があるかといえるのかをピンクの付箋に発散させていきました。

検討会を終えて

- もっと簡単にする方法を見つけていくのが大事なのかなと思った。【ユジン】
 - 対話検はその授業で大事にするところはなんだったのかを考えることが大事。どいさんは影を描けるようになってほしい、その面白さを知ってほしい、目の前の立方体の良さに気づいてほしいだったが、生徒の思いはそれぞれ違う。ズレとしては、教師の願いが強くとも、生徒はその願いを受け入れきれなかったのでは。【巻川】
 - 授業者の本当に伝えたいところと、そのゴールに向かうプロセスにズレがあったのかな？【山口】
 - こっちが思っている以上に生徒にはハードルが高かったのかな。【廣瀬】
 - 影に向かうプロセス自体がむずかしすぎたのではないかな【毛利】
 - 学ぶ意味を生徒が感じれるのかどうか？どんな教科でも大切になるのでは、苦手な子にどれだけ寄り添うのか・・・技術的な教科の難しさ・・・【山下】
 - 見本を見せるのではなく、「予想」させてはどうか？どこに影ができるのか実験することから描かせてみる流れはどうか。【巻川】
-
- 土居さんのメモ
 - 陰に行くまでのプロセス☐限られた時間の中で描くまでがもっとわかるといい。スムーズステップ
 - 光の位置も示す
 - 学ぶ意味☐身近な生活や発見の面白さがあるといい
 - 技術科と連携
 - ちょっと説明するだけでは苦手な子にとってはとっても難しくてできないため、「ハイ本番」ではなく練習が一回あって本番

次回は・・・

高校社会の先生、山下先生による模擬授業を実施予定！そして、その後、オンライン対話検をしましょう！

